

第33卷・第3号 昭和28年5月15日第三種郵便物認可

昭和60年3月1日(毎月1回1日発行)

# 牧草と園藝

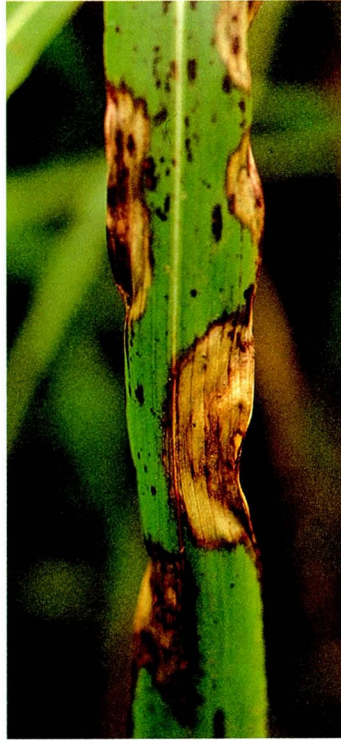


# ソルガムの主要病害の診断と防除のポイント(1)

雪印種苗(株)千葉研究農場<西原>



すす紋病



ひょう紋病



紫斑点病

**すす紋病** 葉の病斑は長い紡錘形または長いレンズ形である。病勢の激しい場合は病斑は鉛色で、その表面にネズミ色のかびが密生してすす状に見える。それを過ぎると灰白色になり褐色の縁で止る。スーダングラスのスイート種は本病に極めて弱い。なるべく強い品種を選ぶとともに、刈遅れにならないよう注意する。

**ひょう紋病** 病斑は初めは小さいが次第に広がり、葉幅を横切る大きな丸形の病斑となる。病斑の色は銅色または紫褐色であるが、濃さは一様でなく、濃淡の差により“豹紋”を描くことが多い。病斑の周囲の新しい部分をよく見ると、鮭肉色のねばねばした小点ウツクがたくさんできている。古い病斑、とくに葉鞘の病斑では、黒い粒点ウツクが多数埋っているのが見える。

品種により強弱があるので強いものを選ぶ。病菌は種子と前年の被害茎葉上で冬を越すので、優良な種子を選ぶとともに圃場衛生に注意する。発病した株では刈遅れないこと。

**紫斑点病** 葉の病斑はいったん葉脈で止るが、再び広がりほぼ楕円形となる。大きさは $0.5 - 2 \times 0.2 - 0.5$  cm程度である。病斑の色はアズキ色または暗赤褐色あるいは濃紫黒色で鮮やかである。病斑の回りにアズキ色の小点が密に現われたり、黄色の暈かきを生じて枯れ、その外側を1層まれに2層の暗赤褐色の縁が囲むことがある。肉眼では病斑面にかびを認めない。